



“仕事・子育て・介護をしながら”活動している
民生委員児童委員に関する調査報告書

神奈川県社会福祉協議会
民生委員児童委員部会

令和3年6月

本報告書は、神奈川県内の民生委員児童委員 9,626 名を対象に行ったアンケート調査(2019 年 4 月～8 月末)及び、アンケート調査を基に行った聞き取り調査の調査(2019 年 11 月～2021 年 2 月)の結果をまとめたものです。

「仕事や介護、育児をしながら」活動を担う委員の現状から、民児協全体としての工夫や仕組みづくりをすることで、委員活動を継続しやすい環境づくりを進めて行ければと考えております。

各民児協におかれましても、本報告書を参考に、持続可能な委員活動に向けた取り組みを検討いただければ幸いです。

令和 3 年 6 月

神奈川県社会福祉協議会

民生委員児童委員部会

目次

“仕事・子育て・介護をしながら”活動している民生委員児童委員に関する調査報告書	…1
【インタビュー調査まとめ】〇〇しながら活動する民生委員児童委員の現状と傾向	…9
【アンケート調査まとめ】“仕事・子育て・介護をしながら”活動している民生委員児童委員に関するアンケート 中間報告	…14

民生委員児童委員部会とは・・・

すべての民生委員児童委員は、市区町村の一定区域ごとに設置される「民生委員児童委員協議会」(略して「民児協」)に所属し、活動をしています。

この市区町村の一定区域ごとに設置する民児協のほかに、市、区、郡、都道府県・指定都市にも民児協組織は設置されています。

「民生委員児童委員部会」は、神奈川県内の県・政令市の民児協で構成され、広域のメリットを生かした調査や交流の推進、提言活動などを行っています。

神奈川県社協民生委員児童委員部会

“仕事・子育て・介護をしながら”活動している民生委員児童委員に関する調査報告書

1. 調査の目的

各地域では、高齢化や人口減少、人間関係の希薄化などによる、住民の生活課題の多様化、複合化が進行していることを背景に、民生委員児童委員の活動への期待がますます高まっています。

一方で、欠員の拡大や在任期間の短縮化が目立つようになり、中長期的な視野で充足率の向上にむけた検討を進めていく必要があります。

本調査では、今後増えると予想される“仕事・子育て・介護をしながら”活動する民生委員児童委員が、委員活動を継続しやすい環境とはどのようなものなのか、その現状と課題を整理することを目的とします。

※なお、以下、“仕事・子育て・介護をしながら”を“〇〇しながら”と表記します。

2. 調査の方法

(1) 県政令市で活動する民生委員児童委員（主任児童委員を含む）への簡易アンケート調査

①目的：“〇〇しながら”委員活動をしている人とその母数を明らかにする

②対象：神奈川県内で活動する民生委員児童委員

③方法：・県社協民生委員児童委員部会より各県政令市民児協あてに調査の依頼をする

・単位民児協定例会にてアンケートに回答いただく

・調査当日の定例会に出席された民生委員児童委員を対象とする

・県政令市または市区町村民児協にてアンケート用紙を回収のうえ、単位民児協毎にまとめて県社協に提出いただく

(2) “〇〇しながら”委員活動をしている方への聞き取り調査

①目的：“〇〇しながら”委員活動をするための工夫、活動しにくい点、今後の課題を明らかにする

②対象：(1)の簡易アンケート調査で聞き取り調査に協力いただける民生委員児童委員のうち、内容、地域、年齢等を勘案して選定した以下の7名。

- ・ 仕事／60代／男性／民生委員児童委員
- ・ 仕事／50代／女性／民生委員児童委員
- ・ 仕事／60代／男性／民生委員児童委員
- ・ 仕事・介護／60代／女性／民生委員児童委員
- ・ 仕事・子育て・介護／50代／女性／主任児童委員
- ・ 仕事・子育て・介護／40代／女性／主任児童委員
- ・ 子育て／40代／女性／主任児童委員

③方法：以下の内容について聞き取り調査を行う。

調査項目	主な内容	
基本属性	年齢、性別、担当地区、民生・主任 民生委員になった経緯、民生委員以外の活動	
〇〇の内容	仕事をしながら	勤務形態、勤務時間、勤務日数、仕事内容・ 職業・働いている場所（市区町村内・外）
	育児をしながら	子どもの人数・年齢
	介護をしながら	介護している人の人数
協力体制	家族・親族のサポート、保育・介護等公的サポート、その他	
時間や活動の仕方の工夫	いつ委員活動をしているか（時間のやりくりなど） 委員活動する上で工夫していること 単位民児協等で配慮してもらっていること など	
活動しにくいと感じる点・課題	個別支援に関すること 定例会や研修会に関すること など	
“〇〇しながら”活動するために必要だと思うこと	個別支援に関すること 定例会や研修会に関すること など	
委員活動のやりがい	委員活動をしていて良かったこと 委員活動が〇〇に活かされていると思うこと など	

3. 調査実施時期

簡易アンケート調査：2019年4月～8月末

インタビュー調査：2019年11月～2021年2月

※2019年10月に民生委員児童委員活動推進会議にて中間報告を行いました。

4. 調査結果

アンケート調査では、県内の民生委員児童委員 9,626 名のうち、49.6%の委員が仕事、子育て、介護のいずれかを行いながら、委員活動をしていることが分かった。それぞれの項目で見ると、仕事をしている委員は、43.6%、子育てをしている委員は 5.2%、介護をしている委員は 8.5%であった。このうち、7.2%の委員は、仕事、子育て、介護を重複して行っていることも分かった。年代別にみると、30代、40代のうち仕事と子育てを重複している委員が約半数おり、50代、60代のうち仕事をしている委員も約半数いた。

アンケート調査をうけて、以下のとおり、7名の民生委員児童委員にヒアリング調査を実施した。その結果、“〇〇しながら”活動する委員の傾向を、以下の11項目に整理することができた。

①活動日程や時間帯

〇〇の内容によって活動しやすい日程や時間帯が異なることが分かった。そのため、各自でスケジュール調整がしやすい見守りや訪問活動は、比較的負担なく行うことができる傾向があった。一方、定例会や研修会等においては、出欠の融通が利いたり、欠席・遅刻・早退・中抜けについて周囲の委員の理解があることが、活動を継続できる要素となっていることが分かった。

②役職・役割

経験を積んで役職に就いたり役割を担う必要が出てくると、時間的な余裕がないため、委員継続が困難になる傾向があった。特に、2期目後半から3期目に入ると、多くの委員が役職や役割を担うことが増え、依頼された役職や役割を担うことができない場合、「委員を辞めるしかないかも」と心理的なプレッシャーを感じている。しかし、〇〇を理由に特別扱いされて、役職や役割の対象から外してもらうことも申し訳ないと感じることも多く、都合に合った役割を選択できると、委員継続ができるのではないかとの意見があった。

③委員同士の支え合い

特に介護や子育てをしている委員については、他の委員からの労いやアドバイスをもらえることは、「〇〇しながらでも委員活動をしていて良かった」と思える要素となっていた。単位民児協内はもちろん、地区を越えた委員同士とつながることで、同じ〇〇をしている委員と出会い、悩みの共有ができる可能性がある。また、2人1組で行っている場合、都合がつかない場合、必要な会議等の出席は1人でも良いと配慮してもらっているとの事例もあった。主任児童委員は同じエリアで同じ役割を担うことが多いため、支え合いながら活動していることが分かった。

④頑張る程度の調整

〇〇しながら活動している民生委員児童委員は、総じて「やれるときにやれることをやる」ということを意識的に行っていた。「自身の生活のうち何割くらいを委員活動に充てているか」という質問に対し、殆どの委員が1割から3割と回答し、委員活動と〇〇とその他の生活のバランスを保つことを重視している傾向があった。

⑤学習の機会

〇〇の都合により研修会に参加できないことも多いが、そのなかでも学ぶ機会を求める委員もいた。都合に合わせて効率的に学べる環境をつくることの必要性も示された。

⑥職場の理解と家族の協力

仕事をしている委員については、職場の理解があることも重要な要素の一つであることが分かった。自営業以外の委員は、勤務日程や時間の調整をしてもらいながら委員活動をしている。定例会など、前もって日程が決まっているものについては調整してもらいやすいが、突然の予定には対応してもらえなかったり、職場にお願いしにくい状況があった。

また、家族の十分な協力があって、〇〇しながらでも活動できていることが分かった。家事の

サポート、委員活動に関係する電話の取次、活動場所への送迎などを、家族が協力してくれている。自営の仕事をしている委員については、仕事の方を家族が手伝ってくれるという話もあった。

⑦委員活動の優先順位

〇〇しながら活動する委員は、委員活動の中でも優先順位を付けて活動していた。困っている住民の見守りや、住民とのつながりを維持する活動、他の委員や同じ状況にある委員との交流ができる集会等は比較的優先度が高い傾向であった。また、会議のうち定例会は優先度が高く、その他の会議や研修会は、必要性や重要性をその都度考えることが多いようだった。活動時間が制限されるため、「民生委員児童委員として大切にすべきことはなにか」「今やるべきことは何か」ということを、常に考えながら活動している様子が見えられた。

⑧関係機関との連携強化

関係機関からの依頼内容によっては、負担感が大きいことも多いとの意見があった。一方で、仕組みとして既に機能している連携体制があると、日々の委員活動がしやすくなるとの意見もあった。住民の見守りやつながりを優先している状況で、1から連携体制を構築することは時間的にも難しいと感じる様子もあり、連携体制の構築には委員個人の努力のみならず、民児協という組織やチームで構築していくことが求められることが示唆された。

⑨民児協運営や委員活動の効率化と透明性

特に仕事をしていると、民児協組織の体制や活動の効率化、活動費の使途の透明性が気になるという意見があった。さまざまな背景を持つ委員が活躍するためには、みんなが納得した民児協運営をしていくことも必要であることが示唆された。

⑩〇〇を活かした活動

〇〇しながら活動する委員は、〇〇の経験や知見、技術を、多かれ少なかれ委員活動に活用している傾向があった。例えば、子育てをしている委員は、学校の役員も担っており子どもたちの様子を知ることができるため、そこから感じた課題を地域で解決できないか定例会で提案した経験があった。また、福祉関係の仕事をしている委員は、福祉の専門職とのつながりを委員活動に活かしていた。さらに、会社員として働く委員は、研修会で他の委員が聞きにくい事を積極的に質問したり、議論を深めるための論点整理をするなどのビジネススキルを活用していた。

⑪民生委員児童委員になって良かった

今回ヒアリング調査に協力してくれた委員は、「民生委員児童委員になってよかった」という。その理由として多く聞かれたのは、「地域に知っている人が増えた」「信頼されたり頼りにされた」というものだった。「委員活動自体を嫌だと思ったことがない」と話す委員もいた。

また、殆どの委員は、「今の状況だったらこれからも民生委員児童委員を続けたい」という。仕事をしている場合は、役職や役割を選択できれば続けていけると考える傾向があり、介護をしている場合は、状況が大きく悪化しなければ続けていける可能性があるとの意見があった。

5. ○○しながらでも委員活動できるための「11の要素」

以上のとおり、○○しながら活動する委員には11の傾向があることが分かった。これらを踏まえ、○○しながらでも、より活動しやすくなるための要素が11抽出された。

- ①会議等の出欠について周囲の理解があること。
- ②役職・役割任命時の配慮があること。
- ③委員同士の支え合いができること。
- ④無理なく活動していこうと申し合わせをすること。
- ⑤効率的に学べる機会があること。
- ⑥職場の理解と家族の協力を得やすくするための工夫をすること。
- ⑦民生委員児童委員として大切にすべきことの共有ができること。
- ⑧関係機関との連携の仕組みがあること。
- ⑨みんなが納得する民児協運営をすること。
- ⑩○○の経験を委員活動に活かすこと。
- ⑪「民生委員児童委員になって良かった」という気持ちを大切にすること。

6. 「11の要素」を具現化するための若干のアイデア

インタビューの中で聞かれた工夫を、委員個人としてだけでなく、民児協全体として意識したり仕組みを作ったりすることで、持続可能な委員活動に近づいていくことと考えられる。抽出された11の要素ごとに「例えばこんなことができるのではないか」というアイデアを記載する。

①会議等の出欠について周囲の理解があること。

スケジュール調整が叶わないものについて、申し訳ないと思ったり心理的なプレッシャーになったりということが重なると、委員の継続が困難になる。欠席・遅刻・中抜け・早退ができる雰囲気があることが重要となる。

これは、○○しながら活動する委員だけではなく、病気や不在時にも活動が安心して続けられる体制づくりにもつながるものである。

例えば・・・

- 欠席することへの罪悪感を抱かないような雰囲気づくり、声掛け
- 出られなかった会議や研修等の資料や情報の共有ができるよう、民児協事務局が支援するなどの仕組みづくり

②役職・役割任命時の配慮があること。

特別扱いされることも心理的なプレッシャーになり得るが、○○しながら活動している委員が実は「あの役割ならできるかもしれない」と思っていることもある。任命時には、そうした考えにも配慮しながら、ともに考えることが大切といえる。

例えば・・・

- 役職・役割を任命する際に、経験年数や輪番で機械的に決めるのではなく、選択や分担ができるようにするなどの工夫

③委員同士の支え合いができること。

同じ立場の委員や同じ経験を持つ委員との支え合いは、委員活動や〇〇のサポートとなり、モチベーションや活動継続の原動力となり得る。

例えば・・・

- 同じ立場の委員同士で、悩みや役割を共有しながら活動できる環境づくり
- 同じ立場の委員とつながるための「出会う機会」の創出

④無理なく活動していこうと申し合わせをすること。

委員活動と〇〇とその他の生活のバランスを保ち、無理なく活動できることが委員活動を進めるうえではとても重要な要素となる。〇〇しながら活動する委員だけではなく、周りの委員も含めて過度に負担がかからないよう、無理なく、ともに活動をしていこうと共通認識を持つことも重要である。

例えば・・・

- まずは委員が自分自身を大切にすることから、という意識の共有
- 1人で抱え込まないための声かけや工夫
- 関係機関・団体や委員同士など、相談先を増やすための情報共有

⑤効率的に学べる機会があること。

時間が合わなくて研修会に出られないことが続いても、学ぶ機会を求めている委員もいる。学びたいと思う人が、自分のライフスタイルに合わせて学びの機会を得られるようにすることは、〇〇しながら活動する委員に限らず、大切なことである。

例えば・・・

- 研修や書籍、DVD等の様々な学ぶツールについての情報共有
- 研修参加が強制にならないよう、参加したい人が参加できるような学びの機会の創出

⑥職場の理解と家族の協力を得やすくするための工夫をすること。

〇〇しながら委員活動を行うためには、職場の理解や家族の協力が必要不可欠だが、それを得るために、民児協として工夫をすることも重要といえる。

例えば・・・

- 民児協年間計画を立てておくなど、日程調整しやすい・協力を得やすくするための配慮
- 定例会の開催日時について、夜間や土日開催を検討するなど、参加しやすくするための工夫

⑦民生委員児童委員として大切にすべきことの共有ができること。

〇〇しながら委員活動を進めるためには、活動時間が制限される中で優先順位を設けて活動することも必要となってくる。委員として大切にすべきことを共有することは、〇〇しながら活動する委員が優先度を決定する際に役立つだけでなく、すべての委員活動を考えるうえでの指針にもなり得る。

例えば・・・

- 定例会や研修会などで、委員としての役割や優先順位を共有するための時間を設ける

⑧関係機関との連携の仕組みがあること。

委員活動を進めるうえでは関係機関との連携が必要不可欠であるが、それを委員個人で進めることは大きな負担となる。民児協という組織やチームとして、関係性を構築していくことは委員活動の充実につながるとともに、関係機関にとっても地域の状況を知るための大きなヒントとなる。まずは民生委員児童委員自身が「助けられ上手」となって、地域の関係機関と積極的に協働していくことが期待される。

例えば・・・

- 関係機関の職員に定例会に参加いただき、双方の活動内容を共有するなどして関係性を構築する
- 民児協として、民生委員児童委員の充て職などの負担を軽減するための折衝を行うなど、関係機関からの理解を得るための取り組みを行う

⑨みんなが納得する民児協運営をすること。

歴史がある民児協という組織だからこそ、慣例で行ってきたことなどについて、委員によっては疑問に思うこともあり、積み重なると不満や不信につながってしまう可能性もある。様々な意見や視点を持つ委員同士が想いを共有し、納得できる民児協運営が必要となる。

例えば・・・

- 前年度の活動を踏襲するだけでなく、民児協の体制や活動のすすめ方、活動費の使途などについて、委員の理解と合意に基づいた決定を心がける
- 活動の効率化やお金の使い方の透明性についての意識を持つ・共有する

⑩〇〇の経験を委員活動に活かすこと。

民生委員児童委員としてだけでなく、〇〇の経験から得たスキルや視点は、民生委員児童委員活動にも生かすことができる。それは〇〇しながら委員活動をしている委員自身にとっても、周りの委員や民児協運営にとっても、プラスになると考えられる。

例えば・・・

- 子育てや介護の経験を生かすことによる委員活動の充実
- ビジネススキルを活かすことにより会議等での議論を深める
- 〇〇の経験で広がった関係性を委員活動に生かす

⑪「民生委員児童委員になって良かった」という気持ちを大切にすること。

「民生委員児童委員になって良かった」という気持ちは、委員活動を進めるうえでとても大切である。「大変なこと」に目がむきがちだが、「良かったこと」を共有し、見える化することは委員活動を行う上でのモチベーション維持や、なり手確保を進めるうえでも重要な視点となる。

例えば・・・

- 委員一人ひとりが感じている「委員活動を行う中で『良かった』と感じたこと」を定例会などで共有し、言語化する

7. まとめにかえて

本調査により、「〇〇しながら活動している民生委員児童委員の傾向」と、そこから導かれる「〇〇しながらでも活動できるための11の要素」を整理することができました。これらは、〇〇しながら活動する民生委員児童委員が活動しやすいだけでなく、すべての民生委員児童委員の活動しやすさにもつながるものと考えられます。

同じ民生委員児童委員とはいえ、生活環境や、委員活動への思い・悩み、活動のしやすさ・しにくさの感じ方は、人それぞれです。多様な背景や思いのある民生委員児童委員が、それぞれの個性を生かし、その人なりに活躍できる活動内容や民児協運営を、ともに考えていきましょう。

【インタビュー調査まとめ】〇〇しながら活動する民生委員児童委員の現状と傾向

活動日程や時間帯

内容	〇〇しながらも参加しやすい会議や研修会等の日程や時間帯の設定
現状	<p><参加しやすい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中は平日の子どもを送り出し後の日中は活動しやすい ・子育て中は夕食後の時間帯の会議等は参加しやすい ・自分である程度スケジュールを決められると活動しやすい ・仕事は突然休むことができないので日程や曜日が予め決まっている方が行事等に参加しやすい ・見守り活動は〇〇の合間にできれば苦勞することはない ・欠席、遅刻、中抜け、早退について容認してもらえると参加しやすい <p><参加しにくい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間や曜日が固定されている参加必須の行事等は参加しにくい ・参加が必須の行事等が多いと心理的なプレッシャーがある ・十分に活動時間をとれないと「申し訳ない」という気持ちになる ・研修会は日程や内容によって出席できないことが多い ・宿泊を伴う研修旅行は不参加あるいは日帰りでの参加をお願いしている
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の内容によって活動できる日程や時間が異なる ・会議や行事などの欠席、遅刻、中抜け、早退ができる雰囲気があると活動しやすい ・各自でスケジュールを調整できる方が活動しやすい（見守り活動等はあまり苦にならない） ・日程や時間の調整ができないとき「申し訳ない」と思っている ・必ず参加しなければならない行事等は心理的なプレッシャーにつながり委員継続が困難になる ・拘束時間が長い研修旅行などへの参加は融通を利かせてもらいたい

内容	〇〇しながら活動する委員の「自分ルール」への理解促進
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・休む時は休む、断るときは断ることを意識的に行っている ・無理をせず楽な方法を考えて活動するようにしている ・仕事が休みの日に活動をするようにしている
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇と委員活動を両立するための「自分ルール」をつくって活動している

役職・役割

内容	役職・役割のプレッシャー軽減
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・役職に就くと1週間に何度も会議等があるため、その前に辞めざるを得ない ・2期目後半くらいから役職になるプレッシャーを感じている ・委員は女性が多く、男性は役職に推薦されやすいためプレッシャーを感じる ・委員経験を積むと会議の準備等も担う必要があり、時間の確保が難しい ・3期目になると役職・役割を持つが、仕事を理由に自分だけ特別扱いをしてもらうことが申し訳ない ・委員活動は嫌だと思わないが役職・役割までは担う時間がない
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・役職等に任命されることへの時間的・心理的負担が大きい ・2期目後半くらいから、役職に任命されるかもしれないプレッシャーが大きい ・〇〇を理由に特別扱いをされると申し訳ない気持ちになる

内容	〇〇の都合に合わせた役職・役割の選択
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から、〇〇と両立できそうな役職・役割を選べると良い ・〇〇に関連する活動は、その他の活動が制限される分、尽力しようと心掛けている ・週1回の会議は物理的に難しいが、年に数回の時期が確定している外部会議や行事には参加しやすい ・外部機関の役員を複数の委員で担当していると、都合が悪い時は別の人に任せられる・役職や役割を決める際に、自分から選ぶことができない
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の都合で役職・役割を選ぶことができない ・活動が制限される分、〇〇関連や得意分野で貢献したい ・役職・役割に任命されても年に数回の会議等であれば担いやすい ・役職・役割に任命されても、都合が悪くて参加できない時に他に任せられる人がいると担いやすい

委員同士の支え合い

内容	〇〇のことを理解してくれる委員同士の関係づくり
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・介護や子育てをしていますが、他の委員からアドバイスをもらえるので、自分だけで抱え込まずに済む ・困ったときでも、他の委員に助けをもらいながら活動している ・同じ〇〇をしている友達を委員に誘い、助け合いながら活動している ・前任も忙しい人だったが、担当区域に委員が1人しかいなかったため続けられずに辞めてしまった ・委員活動は緊張があり、何かあったらどうしようという気持ちが常にあった
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇のことを、他の委員からの理解とサポートによって活動できている ・同じ状況の委員がいると、悩みなども分かち合いやすい

内容	地区を越えた同じ状況の委員との支え合い体制づくり
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地区を越えた委員同士の集まりに支えられながら活動している ・他の地区の活動や様子を聞いて参考にしている
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内で同じ状況の委員がいなくても、他の地区であれば同じ悩みや意見がある委員に出会うこともある

内容	〇〇しながら活動していることへの理解促進
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・無理しなくて良いと言ってもらえないときは、自分から休むことをはっきり言うようにしている ・ペアで活動している場合は、1人が出席すれば良いことになっているので助かっている
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・民児協としての工夫や配慮の言葉があると、気持ちよく活動することができる

頑張る程度の調整

内容	やれるときにやれることをやる意識の共有
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の余裕がなくならないよう、あまり頑張りすぎないようにしている ・自分が苦しくなって人に優しくできなくならないよう、やれるときにやれることをやるようにしている ・生活全体の1~3割程度の気持ちと時間で委員活動を行うようにしている ・「チームで1年間で1人救うことができれば10年で10人救えることになる」という前任者の言葉を胸に活動している
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・やれるときにやれることをやるようにしている ・自分の生活や〇〇の時間をきちんと確保している ・自分自身に余裕がなくなったり、苦しくならぬようにしている

学習の機会

内容	学習意欲に合わせた機会の提供
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や福祉のこと学べる機会が少ない ・勉強をしたい人とあまりしたくない人がいると思うが、勉強したい人が勉強できる環境が欲しい ・仕事をしているとお金のことも気になり、税金を使っている以上、常に学ばなければならぬと感じる
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な知識や技術を効率的に学べる環境を求めている ・各々の都合に合った学習環境を求めている

職場の理解と家族の協力

内容	職場への理解促進に向けた対応
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・委員活動の理解をしてもらい、勤務時間や日程の調整をしてもらっている ・定例会などの日程が決まっているものは、前もって調整をもらうことができる ・委員活動のために仕事に遅刻すると叱責されたことがあり、仕事か委員を辞めることを考えた ・突然予定が入ったりすると、職場に調整してもらいにくい
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・職場に理解してもらえれば委員活動がしやすい ・委員活動の予定は早めに決まっている方が職場に理解してもらいやすい ・突然の予定には対応しにくい ・職場に理解をしてもらえないと委員活動の継続が難しい

委員活動の優先順位

内容	委員活動における優先順位の共有
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例会、研修、見守り活動を優先しているが、その時々によって優先順位を見直すようにしている ・ やらなければいけないことを常に考えてスケジュールを組むようにしている ・ 見守りが必要な人とは必ずつながりを途絶えさせないことを意識している ・ 絶対に出なければいけない会議や行事はないと考えるようにしている ・ 他の委員や同じ状況にある委員との交流ができる会議等には参加できるようにしている
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員活動のなかで優先順位を常に考えている ・ 困っている住民の見守りやつながりを維持することの優先度は高い ・ 会議等でも優先度をつけて参加している ・ 他の委員や同じ状況にある委員との交流ができる場への参加を望んでいる

関係機関との連携強化

内容	委員の負担軽減になる関係機関との連携体制の構築
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ これから増える高齢者の見守りを他の関係機関と連携して仕組みとして行っていきたい ・ 他の関係機関からの依頼には委員には無理があるものも多い ・ 他の関係機関に1つお願いをすると、時間が拘束される依頼が返ってくることもあり、難しさを感じる
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関からの依頼が心理的な負担や時間的な拘束を伴うことがある ・ 見守りや支援の方法が仕組化されていると負担軽減になると考えている

活動の効率化と透明性

内容	活動の効率化・透明性確保に向けての取り組み
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱心で丁寧な地区民児協会長のもとでは、ありがたいと思う反面、次世代の委員は「ここまではできない」と思ってしまう。 ・ 定期的な会議等は効率化して、時間や回数を少なくしていければ、より参加しやすくなると思う ・ 地区民児協会長や役員との会議も、時間や回数が多いと、自分にはできないと思ってしまう ・ 仕事をしていると、活動に使うお金もどこから支出されているのか気になる
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間の制約がある分、会議等の効率化を求めている ・ 会長や役員が多忙であると、後継者がいなくなるのではと危惧している ・ 活動に使う費用について透明性を求めている

〇〇を活かして活動する

内容	〇〇での経験や知識を活かす
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て経験で感じた課題や、学校のPTAや役員等の経験で得たつながりを活かしている ・福祉関係の仕事をしている場合は、専門家とのつながりを委員活動に活かしている ・研修会や定例会で議論をするときに、会社員経験で培ったビジネススキルを活かしている ・介護や子育て中の場合、委員活動により切り替えを行うことで、両方にとって良い影響を感じている
傾向	・〇〇で培った経験や体験、知識や技術を委員活動に活かしている

民生委員児童委員になってよかった

内容	民生委員児童委員になってよかった
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・いままでつながりがなかった地域住民とつながりを持つことができ嬉しい ・地域のさまざまな人たちとつながることができ、視野が広がった ・あまり話をしてくれなかった地域住民に信頼されたんだと思える瞬間はとても嬉しい ・地域の子どもたちの成長を見られることが、貴重な経験をしていると思う ・自分が民生委員児童委員としていることを、地域住民や子どもたちが喜んでくれる ・難しいケースを関係機関とともに解決できたことは嬉しかったし安心した ・委員活動自体が嫌だと思ったことがない ・〇〇の状況が今のままであれば、委員活動は続けたいと思う
傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に知り合いが増え、信頼関係を築き、地域のつながりが濃くなっていくことに嬉しさや喜びを感じている ・〇〇しながら活動している状況が、今のままであれば委員活動を続けたいと思っている

(福)神奈川県社会福祉協議会 民生委員児童委員部会
 “仕事・子育て・介護”をしながら活動している民生委員に関するアンケート
 中間報告

1. 調査の目的

地域では、高齢化や人口減少、人間関係の希薄化などによる、住民の生活課題の多様化、複合化が進行していることを背景に、民生委員児童委員の活動にますます期待が寄せられています。一方で、欠員の拡大や在任期間の短縮化が目立つようになっており、中長期的な視野で検討していかなければなりません。

本調査では、今後増えると予想される「仕事や介護、育児をしながら」など、“〇〇しながら”でも活動を継続しやすい環境としていくため、現時点で“〇〇しながら”民生委員児童委員活動を担う委員の現状を調査します。

2. 方法と対象

県政令市で活動する民生委員児童委員（主任児童委員も含む）への簡易アンケート調査
 目的：“〇〇しながら”委員活動をしている人とその母数を明らかにします。

対象：神奈川県内で活動する民生委員児童委員

実施期間：2019年4月～8月

3. 調査結果

(1) 回答数 9,626名（回答率 約83.8%）

※なお、回答率は平成31年4月1日現在の現員数をもとに算出しています。

(2) ご回答いただいた方の内訳

① 県政令市の内訳

県政令市	回答数
神奈川県	3,684
横浜市	3,889
川崎市	1,219
相模原市	834
合計	9,626

② 役割

役割	回答数	全体の割合
民生委員児童委員	7,768	80.7%
主任児童委員	846	8.8%
未記入	1,012	10.5%
合計	9,626	100.0%

③ 年齢

年齢	回答数	全体の割合
30代以下	11	0.1%
40代	231	2.4%
50代	1,313	13.6%
60代	3,749	38.9%
70代	4,094	42.5%
80代以上	20	0.2%
未記入	208	2.2%
合計	9,626	100.0%

④ 性別

性別	回答数	全体の割合
男性	2,477	25.7%
女性	6,338	65.8%
無回答・その他	811	8.4%
合計	9,626	100.0%

“仕事・子育て・介護をしながら”活動している

民生委員児童委員に関する調査報告書

令和3年6月

神奈川県社会福祉協議会 民生委員児童委員部会

